

第7回CSPI-EXPO 開催レポート



イノベーションが加速する舞台

建設・測量分野の最先端の技術や製品が一堂に集う国内最大規模の専門展示会「第7回国際建設・測量展(CSPI-EXPO2025)」が18日から21日の4日間、千葉市の幕張メッセで開催された。405社、2765ブースが出展し、過去最大規模となった今回は、昨年を上回る5万7362人(21日の速報値)が来場した。国土交通省が推進する「Construction 2.0」を実現する遠隔・自動施工など最先端の建設機械が展示されたほか、チルトロータリーをはじめとする海外の優れた技術やサービスも紹介され、急速な進化を続ける建設・測量技術の現在と将来を展望する展示会となった。

オープニングセレモニー・政務官視察

第7回CSPI-EXPOは、名称を「国際建設・測量展」に改め、土曜を含む初の4日間開催に移行するなど新たな試みを随所に取り入れ、国際展示会としてステップアップを図った。特に21日の土曜日は「一般観覧日」として入場無料で一般公開した。3214人の業界来場者に加え、家族や子ども、学生など6786人の一般来場者が訪れ、計1万7人でにぎわった。

初日のオープニングセレモニーで、谷鉄也実行委員長は「建設・測量技術は、DX(デジタルトランスフォーメーション)やオートメーション、生成AIなどがめざましい進化を遂げ、人手不足の解消や生産性向上、働き方改革の実現が期待されている。日本が誇るテクノロジーの粋を集めた本展示会は、業界のイノベーションを加速させる舞台として今後も努力していきたい」とあいさつした。

固定勇人国交省政務官は「人口減少や担い手確保が全産業共通の課題となる中、インフラが老朽化し、自然災害が激甚化・頻発化する状況となり、持続可能なインフラ整備やメンテナンスで国民の生活や経済活動を守ることに重要になっている。国交省は「i-Construction」の推進し、現場のオートメーション化による2040年までの3割の省人化をすなわち1.5倍の生産性向上を目指している。本展示会はオートメーション化に向け建設や測量機器に搭載するデジタル技術、AI(人工知能)を使ったソフトウェアなどの最新技術が一堂に集う。



各ブースの展示を国定政務官らが視察した

初の4日間開催 生成AIなどめざましい進化



テープカット

須賀千鶴経済産業省製造産業局産業機械課長は「日本の建設は国内外のさまざまな場所で使用され、社会インフラの整備に貢献している。この展示会での交流が、わが国の建設機械産業のさらなる発展に貢献することを期待するとともに、熱いエキスポになることを楽しみにしている」とあいさつした。式典には国交省の廣瀬昌田技監らも出席し、展示会を後援する18団体や出展企業の代表者らがテープカットし、オープニングを盛大に祝った。

続いて各ブースの展示の開始に合わせて、国定政務官、廣瀬技監、森博之総合政策局長共事企画調整課長(前官房参事官)イノベーション担当らが会場を視察した。出展各社の担当者から最新の製品、技術、サービスなどの説明を受けたが、熱心に聞いて回った。

「アミューズメント」の出展ブースでは、ドローンレーザー測量機を見学。空中から陸地と水底を同時に測量できる同機について「どの程度の風速に耐えられるか」「濁流でも対応できるか」といった質問のほか、災害時の活用にも期待を寄せた。そのほか運転席からタッチメントを交換でき、複数の作業に対応できる日立建機のショベルカー、酒井重工業の自動運転ローラー、トプコンやヤンマー建機のICT建機、タタのフル電動ラフレインクレーンなどの最新技術に触れた。

最先端の建設機械展示



会場は初日から多数の来場者でにぎわった

展示会には、国交省が推進する「i-Construction 2.0」の実現に向けて、建設現場のオートメーション化を実現する多数の建設機械が出展された。

「コマツのEARTHBRAND(アースブレイク)は、i-Construction 2.0の実現をサポートする同社の3D施工プラットフォーム「Art Construct」の各種ソリューションを展示。その一環として、ユーザーの生産性向上に直結する技術として「ICT施工Stage II」に対応するソリューションの紹介に力を入れた。特に建機やタンクなどの位置情報を活用し、リアルタイムへの掘削シミュレーションや、掘削シミュレーションの積み込み作業などを最適化する「Fleet」や「1兆通りものパターン」から最も効率的な運土計画などを瞬時に抽出し、3Dモデルで可視化する「Simulation」などを展示した。

キャタピラーは、遠隔操作システム「Cat Command」(ドローン)の遠隔離機作システム「Cat Command and Steer」に業界初の遠隔施工となるホルロターを追加し、今回の展示で初公開した。従来の油圧、ホベルト、ミニショベルのバイオニアで



コマツブースはICT施工の強化を入れた



キャタピラーブース

自動化・省人化技術が多数出展

あるヤンマー建機は、超小旋回ミニショベルシリーズ「60」など「L」の最新機種B36などを展示した。都市部などの狭小地の施に特化した機種としてトプコンの3Dマッピングの掘削深さを誇り、足下のフレッドを深く掘るための配管や埋設工事に効果的と評価する。3トナント

海外の技術サービスも

一方、今回から「国際建設・測量展」を改称し、より国内外に情報発信しやすくなることで、さまざまなソリューションが集まる国際展示会へとステップアップを進めている。i-Construction 2.0を推進するチルトロータリーの分野では、開発企業の一つであるスウェーデンのengconが昨年PIE-EXPOに初出展した。



ケルヒャーの床洗浄ロボット



ネパール人の派遣業務を展開するZIN

屋外展示場に表機を導入し、バックホウに装着してバケットを左右45度まで傾け、360度回転する動作を演習。さらにコンパクトなアタッチメントを装着して作業してみせた。同社は「冬場は極寒の地になるスウェーデンだからこそ、短時間で合理的に作業するチルトロータリーが誕生した。装着すれば1台で34台分の作業でき、省人化や時間短縮に貢献する」とメリヤ

一方、人手不足が深刻化する建設現場では、外国人材の活躍がますます重要になる。ネパールの施工管理・設計エンジニアの派遣業務を展開するZIN(東京都中央区)は、現地の国立大学を卒業した建設、土木、電気、機械分野を専門とする若手技術者の派遣モデルを紹介した。同社は「日本では、例えば東京大学に相当する大学を卒業した技術者を派遣している。BIMなど最先端の技術に対応するほど優秀で、当社が日本語教育を支援するほか、派遣期間中はネパール人スタッフが生活面、精神面をサポートする」とい

た。保育園でCSPI-EXPOのパンフレットを見て参加したという母親は「4歳の子どもは重機が大好きなので参加した。かたじけなく、大満足している」と話した。

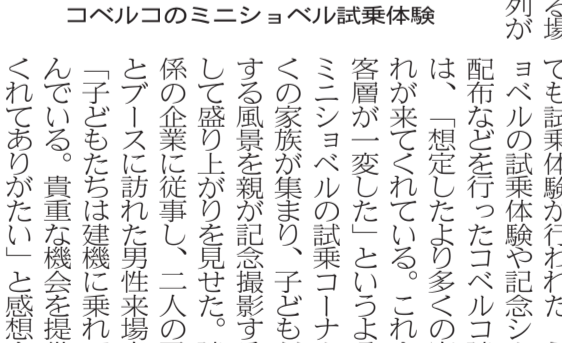
一般観覧日

今回のCSPI-EXPOの最大の見どころは、21日の一般観覧日だ。土曜日に開催することで、平日は現場を離れて来場できない人たちが家族とともに参加できるようにした。普段の生活では目に見えない大型建機やドローンなどの最新機器、自動運転や遠隔操作などの日本が世界に誇る技術を体感してもらい、将来を担う子どもたちにも建設業の魅力を紹介するのが目的だ。関東1都6県の小中学校などに一般観覧日の開催を告知するなど広報にも力を入れ、多くの家族連れや学生の来場も予想されたことから、各ブースでは建機の試乗や記念グッズの配布など、子どもたちが楽しめる

試乗体験で子どもたち歓喜



キッズパークでの操作体験



コベルコのミニショベル試乗体験

イベントを用意した。日本建設機械工業会は「建設機械の魅力に触れ、建設機械整備の仕事を理解する」をテーマにした特別ブースを設置。学生はもちろん未就学児と家族を含め、誰でも入場でき、建設機械の魅力や建設機械整備士の仕事内容について展示した。キャリアマッチングコーナーや若手整備士の紹介も開催したほか、会員各社の紹介も実施し、就職活動にも役立つ情報を得られる場にした。さらに現役の整備士が絵本作家のはつとりひさきの「トクイ」や絵本の「原画展」も開催した。

一方、21日はセミナー会場を「キッズパーク」に転用し、カナモトテクノがそれぞれ子どもたちが建機を操作体験できる場を提供した。いずれも長蛇の列が配布などを行ったコベルコ建機は、「想定したより多くの家族連れが来場している。これまでよりも客層が一変した」といっている。ミニショベルの試乗コーナーに多くの家族が集まり、子どもが操作する風景を親が記念撮影するなどして盛り上がりを見せた。建設関係の企業に従事し、二人の子どもとアリスを訪れた男性来場者は「子どもたちは建機に乗って楽しんでいて、貴重な機会を提供してくれてありがたい」と感想を述べ

た。保育園でCSPI-EXPOのパンフレットを見て参加したという母親は「4歳の子どもは重機が大好きなので参加した。かたじけなく、大満足している」と話した。

屋外展示場でも建機がダイナミックに稼働する様子を見ることができ、多種多様な用途の建機に試乗できる機会とあって多くの子どもたちが「はじい」しながら建機を体験した。engconは、建機に取り付けたチルトロータリーを動かして、記念キャップをつまみあげて子どもたちをわすれずパフォーミングを言い注目を集めるなど、子どもたちに建機の魅力を提供する貴重な機会となった。

2026年度に開催する第8回CSPI-EXPOは6月17日(水)〜20日(土)まで4日間、幕張メッセで開催する予定だ。